

巻 頭 言

『異文化経営研究』第13号発刊にあたって

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第13号を発行することができ、誠にありがたい。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究ノート三篇に加えて、招聘論文一篇と研究大会の講演抄録一篇が掲載されている。発行に至るまで多大なご尽力をいただいた執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼を申し上げる。

会員のみなさまの暖かい応援と歴代の役員の尽力のおかげで、異文化経営学会は400名を超える会員を擁する学会に成長した。2016年11月には、当学会のこれまでの活動が認められ、日本経済学会連合(以下、連合)への加盟が承認された。1950年に創立された連合は、経済学とこれに関連する諸科学の研究を行っている学者・研究者・専門家の諸学会で構成される連合体で、日本学術会議に所属しており、64学会、加盟学会会員延べ43,000名をもって構成されている。連合への加盟は当学会にとって光栄であり誠に喜ばしいことである。

異文化経営学会は、研究大会に加え、インターナショナルセッション、中部部会、関西部会、九州部会、北陸部会と、活動の輪がますます広がり、会員同士の交流も盛んで、学界と実業界との共創も進みつつある。そこで、今一度、原点に立ち返ってみたいと思う。それは研究の質の向上である。激動する世界にあって、揺るぎない軸を持つためには、地道な研究が必須であるからである。そのために、次のことをお願いしたい。それは、学会に参加すること(S)、研究報告をすること(H)、さらに、学会誌に投稿すること(T)、そして、ペーパーとして採択されること(P)、である。このS→H→T→Pのサイクルを回していくことにより、研究者個人の実績とともに学会も成長を遂げることができるのである。

世界がますます混迷を極める昨今であるが、異なる価値観の人々が対立するのではなく、融和することができるように、また、人と自然が共存することができるように、会員の皆様とともに歩んでいきたいと切に願っている。

今後ともご支援を賜りたく、お願い申し上げる次第である。

2016年12月

異文化経営学会 会長

馬 越 恵 美 子